

5 物価

(1) 国内企業物価指数

平成17年の国内企業物価指数(総平均)は97.7、対前年比1.7%となり、2年連続で前年を上回った(図48-1、図48-2)。

この要因を財別寄与度でみると、工業製品が素材原材料や原油価格の値上がりにより、プラスに寄与している。一方、農林水産物や電力・都市ガス・水道は前年より低下しており、マイナスに寄与している(図48-3)。

需要段階別で国内企業物価指数の1年間の推移をみると、平成16年から引き続き、非鉄金属や原油などの国際商品市況の急騰により、素原材料は一年を通して前年を大きく上回った。一方、消費財は年初から価格が低下基調に推移しているために前年を下回っていたが、年末になるにつれ川下分野である最終消費財において、原材料コストの価格転嫁が徐々に浸透し、前年を僅かに上回るようになった(図49)。

【国内企業物価指数】

出荷や卸売り段階での企業間の取引価格の動きを示す指標で、景気動向に敏感に反応します。景気が過熱してモノの需給が引き締まると、企業物価は上昇します。逆に不況期には下落します。日本は原材料を多く輸入に依存しているため、海外市況や為替相場に左右されやすい側面もあります。最近では、原油価格高騰や原材料高騰等で上昇局面が続いています。

【 国内企業物価指数の推移 】

図48-1 国内企業物価指数

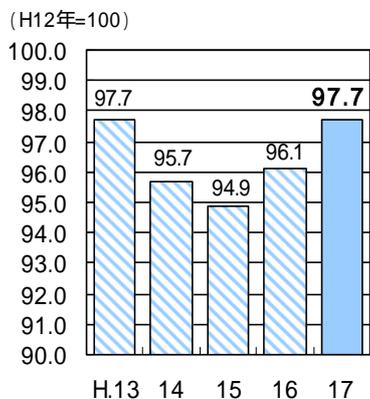


図48-3 財別寄与度

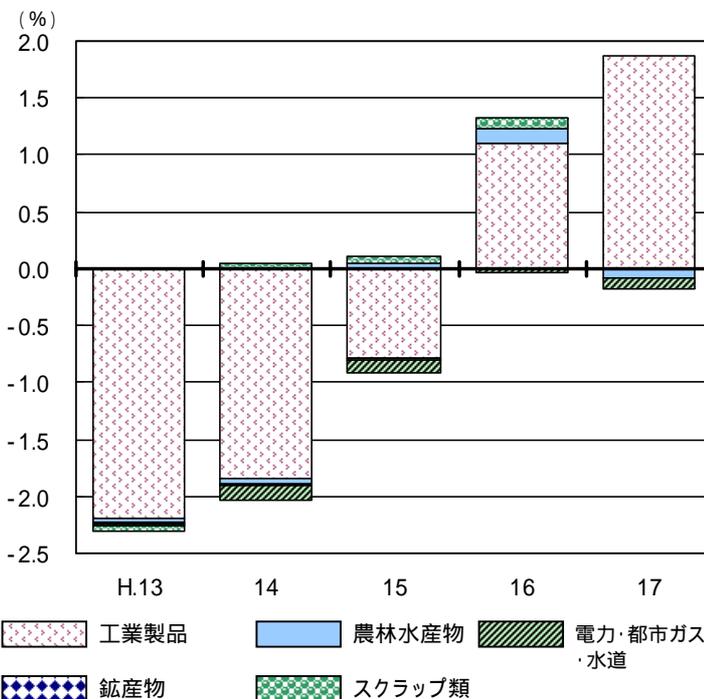
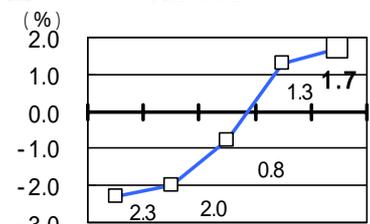


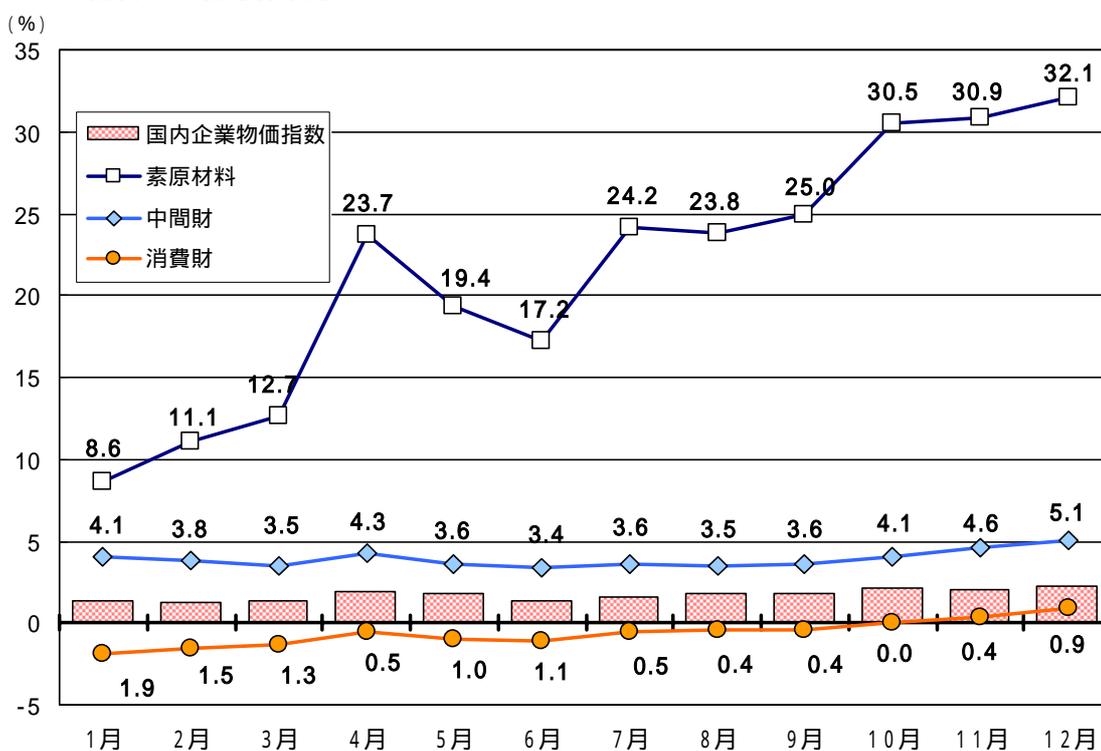
図48-2 対前年比



備考 1 (資料:日本銀行「企業物価指数」(H12=100)より作成)

【 国内企業物価指数(需要段階別)の推移 】

図49 需要段階別対前年比



備考 1 (資料:日本銀行「企業物価指数」(H12=100)より作成)

指標は、P.81に掲載

(2) 消費者物価指数

平成17年の福島市消費者物価指数(総合)は100.0、対前年比0.0%となり、前年と同水準となった(図50-1、図50-2)。

この要因を費目別寄与度でみると、灯油やガソリンの値上がりにより3月を除いて「光熱・水道」、「交通・通信」がプラスに推移している。また、秋冬物衣料品が好調に売れ行きを伸ばした「被服及び履物」も年末には大きくプラスに寄与した。一方、「食料」は前年の天候不順にともなう葉物野菜の価格高騰の反動により、6月以降マイナスに推移した。また、テレビ等の家庭用耐久財の値下がりにより「教養娯楽」もマイナスに推移した(図50-3、図51)。

なお、「生鮮食品を除く総合」は100.0、対前年比0.1%となり、7年振りに前年を上回った。

【消費者物価指数】

消費者が平均的に購入する商品やサービスを基準年を100として(現在は平成17年=100)固定して、物価がどのように変化しているかを指数化したものです。また、生鮮食品は天候などの要因によって価格が大幅に変動するため、他の商品やサービスの価格動向を見えにくくなるので「生鮮食品を除く総合」でみることもあります。また、税制や社会保障制度の変更や原油等のエネルギー価格の動向が影響を及ぼすことがあります。

【 消費者物価指数の推移 】

図50-1 福島市消費者物価指数

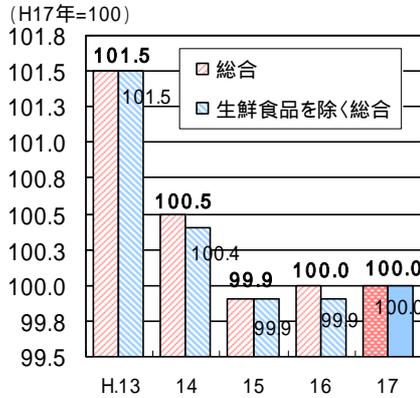


図50-3 費目別寄与度

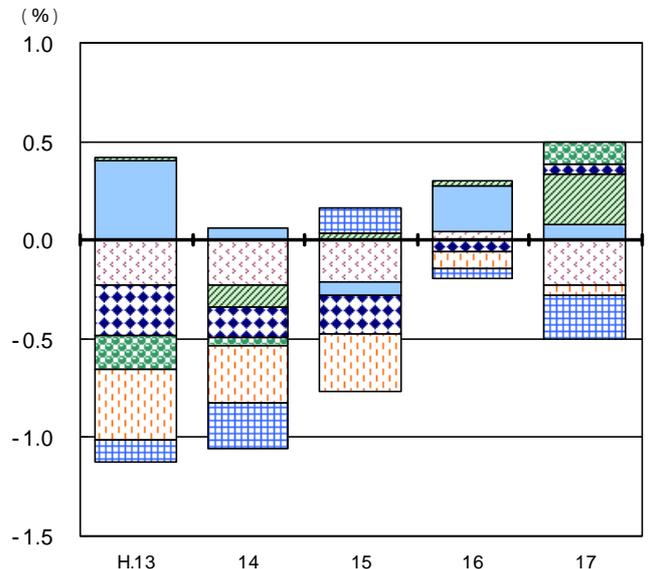
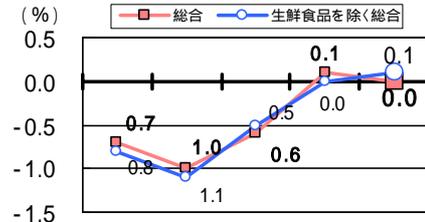


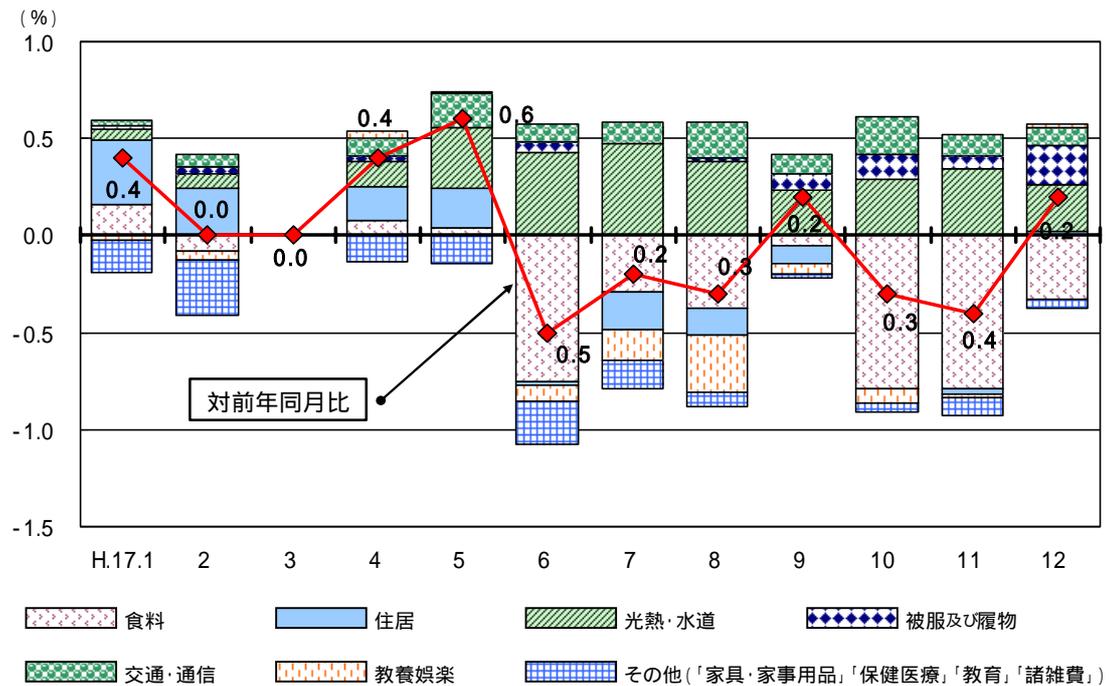
図50-2 対前年比



備考 1 (図50-1、図50-2の太字は総合の値、細字は生鮮食品を除く総合の値)
2 (資料:総務省統計局「消費者物価指数」(H17=100)より作成)

【 消費者物価指数(月次)の推移 】

図51 費目別対前年同月比及び費目別寄与度



備考 1 (資料:総務省統計局「消費者物価指数」(H17=100)より作成)

指標は、P.82に掲載